

アンケートに答えます！



5月1日メーデー、フランスで立ち上がる無数の人々。25%を超える失業率に苦しみ、怒る青年・学生が先頭に立ち、警官隊とも衝突。メーデーには世界各国で労働者・学生が、自分たちの社会を取り戻すためのデモ・ストライキに立った。

誰のための社会だろうか？

●アンケート回答ありがとうございました！

自治会アンケートに回答していただいた皆さん、ありがとうございました！

今回はそれぞれのクラスで「広大での反戦ストライキについて、学生自治会について」自由記述してもらった内容に対して、特徴的だった意見を3つほど抜き出して回答していきたいと思います。（他の主だった意見の一覧は右側に載せました。）

●利益追求の政治は大事なことだと思う 自由な場なのでストライキは大事である。

（自由記述）

利益追求の政治は大事なことだと思う。
日本は外国の資本で成り立っているから。
自由な場ではあのデストライキは大事である。

利益追求の政治を支持することと、自由な環境を前提としてストライキを支持する、という2点が出されていると思います。

1点目、利益追求の政治の是非ですが、問題は「誰の」利益の追求なのか、ということです。パナマ文書で明らかになったように、その追及される利益とは、どの国家においても、一握りの富裕層のためのものでしかありません。不景気を理由に労働者の4割が非正規雇用に追い

込まれる一方で、富裕層は「合法的に」脱税をしている。その上、自治体職場の合理化・人員削減で、熊本震災への対応がままならず被害が拡大したなど、いまや1%の富裕層の利益追求と、99%の労働者・公共の利益が完

～クラスから出た主な意見～

- 自由だと思う。ただ私は反戦派です。
- 参加はできませんが、がんばってください。
- 戦争には反対なので、やるべきだと思います。
- 広大内でやるのは止めるべき 少し様子見
- 自分で選挙に行った後で答えを出したい。
- 戦争は嫌なことではあるが、大学機能が一時的にも停止してしまうようなストライキはしたくない。あくまで現状でできる学問がしたい。
- 知識や技術を身につけることが大事だと思います。学生は学生らしいことをやったほうが良いんじゃないかと。
- 沖縄出身です。ストライキすることは自由ですが、地域の住民に対するマナーは守るべきだと思います。
- 周囲に迷惑をかけない程度にやることは良いと思う。ただ具体的な解決策を提示して欲しい。

皆さんの回答ありがとうございました！
今回の意見をもとに、議論の方向性をつくっていきます。学生こそ、未来を切り開く議論をつくり出そう！

（委員長・森田寛隆）

E-mail:hiro dai86@yahoo.co.jp

Blog:http://hiro dai86.blog.shinobi.jp/

広島大学学生自治会

全に乖離した状況になっています。成り立たなくなっているのは、こうした1%の利益だということです。

さらには国家間の利益追求が対立関係に入っています。米側が日本の円安誘導を許さず、ドル安を維持するため為替の「監視リスト」に日本を加えました。経済的衝突が各国間で始まっており、緊張関係は高まっています。これが戦争の最大の要因でもあります。公共の利益とも対立し、他国とも衝突しなければならない1%のための利益追求など終わらせようということです。

2点目の自由ではないか、ということについて、同じような意見が多かったと思います。しかし、私たちはまさにこの自由が奪われていることを捉えなければならないと考えています。今や多くの大学では、学生が政治討議を公然と行うことは自由ではありません。東京学芸大では反戦ビラをまいたことを理由に学生が逮捕されることまでおこりました。

それに加え、予算を得るためにだと、スーパーグローバル大学政策を学生主体を無視して推し進めたり、軍事研究にさえ加担したりしていることは、大学で行われている学問そのものが自由に行われてなどいないことを端的に示しています。この大学の腐敗もまた、1%のための利益追求の政治の結果でもあります。

ストライキはこの自由を奪おうとする在り方に対し闘い、逆に学生自治を確立するための根本的な手段です。ストライキは強制的に業務を停止させる行為ですが、その業務が学生主体を無視し、さらには命を奪うものとなろうとしているからこそ、停止させようということです。

●今の軍事政策が戦争につながるかも しかし、軍事力も大切かなと思う

(自由記述)

今の軍事政策が戦争につながるかもしれない。
軍制も今後大切かなと思う

安保法制をはじめとする軍事政策が戦争につながる問題だと考えるが、軍事力を持っていないといけないのではないか、という意見をもらいました。戦争の問題は、実際的にこの問題意識に応えられるものでなければならないと思います。

戦争は単に為政者が言っただけではできません。職場で武器をつくり、運ぶ労働者がいなければならない。軍

事研究を行う大学人がいなければならない。日々は社会を成り立たせている労働者、未来のために学問する学生が、自らの国家の利害のために相手の社会を破壊するような行動に立つことができないといけないわけです。それは日本のみならず、どの国でも同じです。だから、戦争を阻止する力は、為政者や軍事力にあるのではなくて、戦争のための軍事政策を進め、武器開発・軍事研究を強いる自国政府を学生・労働者自身が打倒する、その国際連帯を強固に築くことです。

実際に今、朝鮮半島での戦争的緊張が激化し、パククネ政権が北朝鮮に対抗する「国民の団結」を呼びかける中、韓国の民主労総という労働組合は、それを拒否し戦争絶対反対の立場でゼネストに立ち上がっています。学生自治会は民主労総と連帯して闘います。国境を越えた団結で戦争を阻止しましょう！



●平和に大学生活をおくりたいので、 まきこまないで下さい

(自由記述)

平和に大学生活をおくりたいので、まきこまないで
下さい。

この意見に対しては、「平和な大学生活」自体が困難になっていると思います。私たちはむしろ、理不尽に巻き込まれ続けている側だと思います。昨年度末、広大構内で4年生が飛び降り自殺しました。非正規雇用の拡大といった、ストレートで卒業できなければまともに生きていけないのではという圧力があり、「普通に」大学生活を行うこと自体が命がけのことになっていると思います。同様の環境にあるフランスの学生たちは、生きていけない社会を強制する政治を変えようとストライキに立っています。「平和な大学生活」を送るためにも、フランスの学生たちのように、自分自身が大学と未来の主人公として立って、政治と大学を変える主体に立ちませんか？

沖縄闘争に行こう！ 当面のスケジュール

※ぜひともhiro dai86@yahoo.co.jpまで連絡ください！

◆5・15沖縄現地闘争

5月14日～16日の3日間の現地行動。1972年5月15日、沖縄の「祖国復帰運動」によってアメリカから日本に返還されました。しかし「基地付き・核付き」という返還の中身は到底受け入れられないもので、沖縄県民にとって新たな「屈辱の日」となりました。

※航空チケット代・宿泊費の負担は相談に応じます。

◆学習会「どうやって戦争を止めるか ー沖縄全島ゼネストの闘いから学ぶ」

5月9日(月)18時～ 学生プラザ1Fフリースペースにて

ベトナム戦争の最中、戦闘機の飛び立つ沖縄の米軍基地で働く労働者が「死すべきは基地だ！労働者は死んではならない！」と叫びストライキに立ち上がりました。米軍の命令を無視するという恐ろしい行動。しかし戦争を支えているのは自分たち自身だ…。基地労働者はストにどうして立てたのか。戦争を直接止めた沖縄の闘いに学びます。